

第二部

学習評価の改善

令和5年度高等学校教育課程研究員

愛知県立三好高等学校 児玉 征久

学習評価の基本的な考え方

- ① 教師の指導改善につながる

指導と評価の一体化

PDCAサイクルを回す
学習指導マネジメントシート

学習評価の基本的な考え方

② 生徒の学習改善につながる

生徒自身が自らの学習を振り返り次の学習に向かうことができるようにする

生徒のよい点や進歩の状況などを積極的に評価

⇒ 学習したことの意味や価値を実感できるようにする

⇒ **次の学習へのモチベーションUP**

二つの学習評価

① 観点別学習状況の評価

生徒の学習状況がどのようなものであるかを、観点ごとに評価し、学習状況を分析的に捉えるもの

A・B・C
3段階

② 評定

観点別評価をもとに、総括的な学習状況を数値で示したもの

5・4・3・2・1
5段階

3段階評価を5段階評価にする難しさ

新しい観点別評価

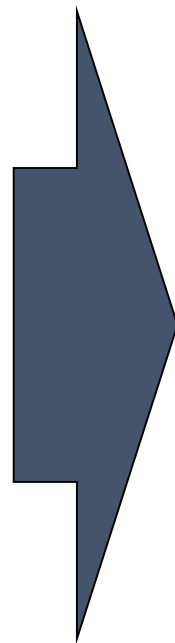
旧

関心・意欲・態度

思考・判断・表現

技能

知識・理解



新

知識・技能

思考・判断・表現

主体的に学習に
取り組む態度

新しい観点別評価

A : 「十分満足できる」

B : 「おおむね満足できる」

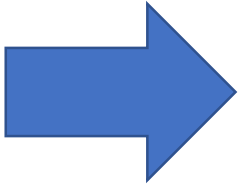
C : 「努力を要する」

生徒や地域の実態に即して定めた目標や内容に照らして、その実現状況を評価する

評価規準作成の参考となるもの

 学習指導要領解説の例示 = **B**

これを基に A、C を明確化しておく

 授業担当者同士で共通理解、共通認識
を持っておくことが重要

「知識」の評価

○具体的な知識（種目の特性に応じた固有の知識）を習得できているか

○具体的な知識と汎用的な知識（一般的な理論や概念）の2つを関連させて学習することができるか

＜評価方法＞

○ペーパーテスト

- ・知識の習得を問う問題
- ・概念的な理解を問う問題

○ワークシート

「技能」の評価

○種目固有の技能や動き等を身につけている

○各領域の特性や魅力に応じた楽しさや喜びを味わうことができる

技能は学習指導要領解説に多く例示されているものを参考にする

<評価方法>

○スキルテスト

※**保健**で技能を評価するのは**応急手当**についてののみ

「思考・判断・表現」の評価

知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力，判断力，表現力等を身に付けているかどうか

＜評価方法＞

- ペーパーテスト
- 論述やレポートの作成
- 発表，グループでの話し合い
- 作品の制作や表現等の様々な活動
- ポートフォリオの活用

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

知識・技能、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりするために

- ①粘り強い取組を行おうとしているか
- ②自らの学習状況を把握し学習を調整しようとしているか

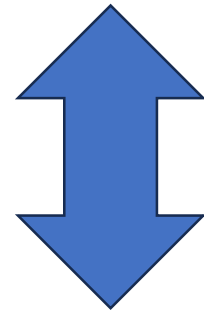
＜評価方法＞

- ノートやレポート等における記述
- 授業中の発言
- 教師による行動観察
- 生徒による自己評価
- 生徒同士の相互評価

提出物の提出状況等だけで評価していませんか？

観点別評価の総括（まとめ方）

- ① 評価結果のABCの数を基に総括する
- ② 評価結果を数値で記録して総括する
- ③ その他



事前に具体的に決めておく

観点別評価の評定への総括

(例) ABCの組み合わせから評定に総括する

BBB は 3 を基本とする

AAA は 5又は4

CCC は 1又は2 とするのが適当

★それぞれのパターンを各学校で決めておく

☆3観点の評価の重みはバランスよく

評価方法と評価のタイミング（評価機会）の工夫

知識・技能

知識

思考・判断・表現

思考・判断・表現

2つに分けて考える

**主体的に学習に
取り組む態度**

技能

**主体的に学習に
取り組む態度**

評価方法と評価のタイミング（評価機会）の工夫

「知識」及び「思考・判断・表現」

主に学習カード等に記述された内容から
評価の材料を得る場合が多い



指導から期間を置かず評価する

評価をフィードバックし、次の学習に繋げる

評価方法と評価のタイミング（評価機会）の工夫

「技能」及び「主体的に学習に取り組む態度」

主に観察評価によって評価を行う

技能の獲得、向上や態度の育成等
には時間がかかる



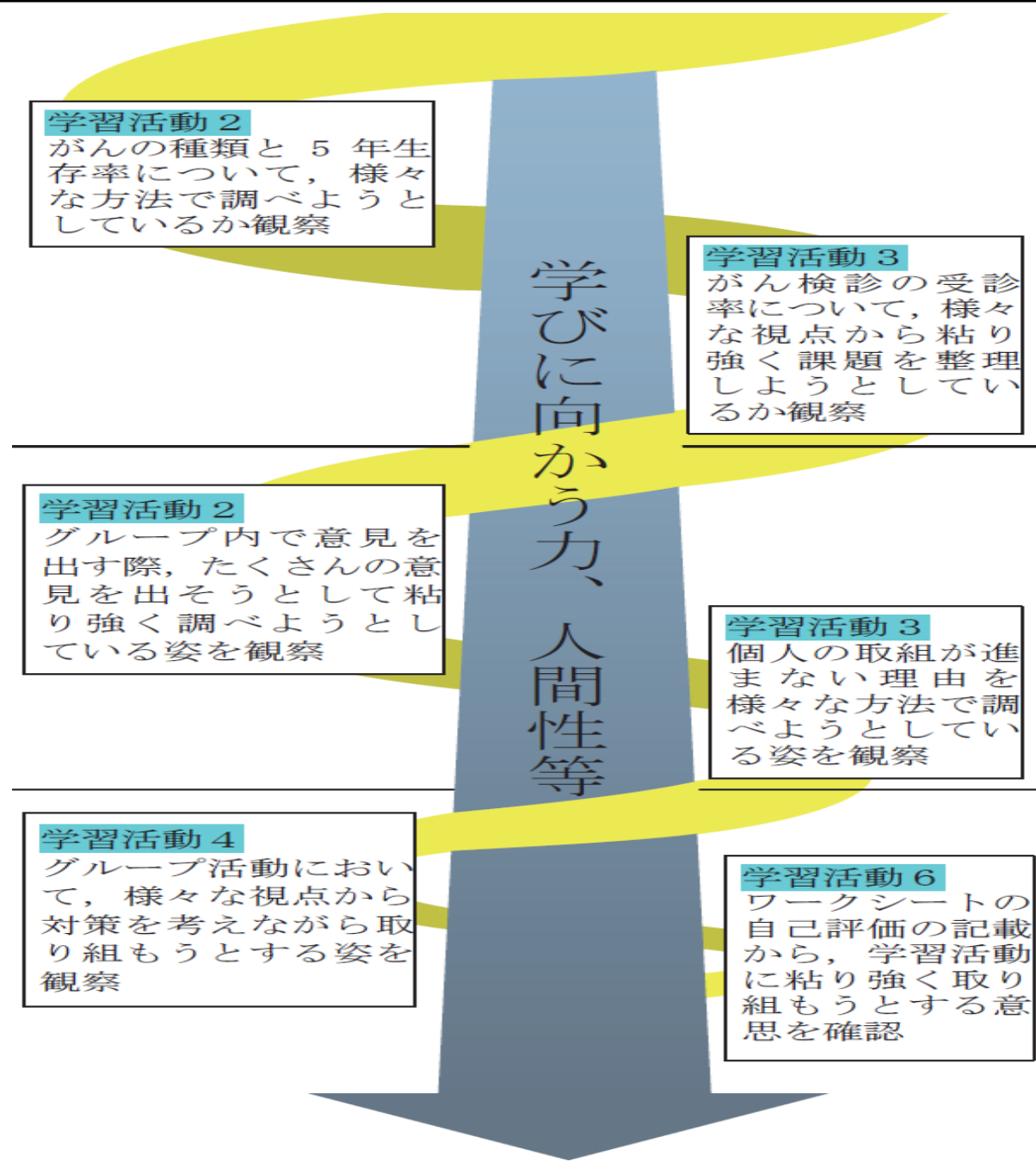
指導後に一定の期間を取って評価する

「主体的に学習に取り組む態度」 の評価タイミング

単元を学習する過程で
徐々に育まれていく



単元の終盤で評価する
ことが望ましい



		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	
学習の流れ	0	健康観察、準備運動、用具の点検、本時の学習内容の確認																
	1	○オリエンテーション 【復習含む】 ・意識 ・特性 ・伝統的な考え 知① 伝統的な考え方 ○健康・安全上の留意事項 意② 健康・安全	○基本動作 ・構え ・体さばき ○基本技の復習 知③ 技の行い方 技①⇒知③ (引き面)	○既習技の復習 技②⇒知③ (出ばな面) 新たな技の習得 ○出ばな技 ○約束練習 ・ICT活用(動画) ○自由練習 ・ICT活用(動画)	○既習技の復習 技③⇒知③ 新たな技の習得 ○抜き技 ○約束練習 ・ICT活用(動画) ○自由練習 ・ICT活用(動画)	思① 課題や練習方法の考えを伝える 知② 試合の行い方 思② 相手への尊重、伝統的行動様式の振り返り	○課題別グループ学習 ・既習技 ・ICT活用(動画) ・見取り稽古 ○簡易試合 ・ルールの確認、修正 ・審判、運営	○既習技の確認 思① 相手への尊重、伝統的な行動様式 ○簡易試合 ・個人戦 ・団体戦	○簡易試合	○単元(学習カード)のまとめ								
	2										新たな技の習得 ○引き技	新たな技の習得 ○抜き技	○簡易試合					
	3										○約束練習 ・ICT活用(動画)	○約束練習 ・ICT活用(動画)	○簡易試合 ・個人戦 ・団体戦					
	4										○自由練習 ・ICT活用(動画)	○自由練習 ・ICT活用(動画)						
5	学習カード記入、健康観察、整理運動、用具の片付け、本時の振り返り、次時の確認																	
評価機会	知	①	(③)		(③)		③			②								総合的な評価
	技			(①)		(②)		(③)			①	②	③					
	思									①			②					
態			②														①	

第三部

体育・スポーツを通じた共生社会の実現

保健体育科（科目体育）

令和5年度高等学校教育課程研究員

愛知県立豊橋西高等学校 林 泰盛

愛知県立安城南高等学校 毛受 章

これからの時代に求められる教育

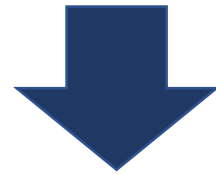
共生



あらゆる他者を価値のある存在として尊重し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となることができるようにすることが求められる。

運動やスポーツとの多様な関わり方

共生



体力や技能の程度，性別や障害の有無等にかかわらず，**運動やスポーツの多様な楽しみ方を卒業後も社会で実践**することができるよう，**共生の視点を重視して指導内容の充実を図ること。**

共生の視点を踏まえた指導の充実（男女共習について）

体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会であることから、**原則として男女共習**で学習を行うことが求められる。その際、心身ともに発達が著しい時期であることを踏まえ、**運動種目によってはペアやグループの編成時に配慮したり、健康・安全に関する指導の充実を図ったりする**など、指導方法の工夫を図ることが大切である。

また、障害の有無等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現とともに、スポーツを通じた共生社会の実現につながる重要な学習の機会であることから、本解説第3章第1節3に示した障害のある生徒などへの指導の内容等を参考に、指導の充実を図ることが大切である。

共生の視点を踏まえた指導の充実（男女共習について）

生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に関連付けて理解する

例えば社会に出た後のスポーツ活動を考えてみると・・・

競技として
極めたい



競技スポーツ
の世界でも
例えば・・・

職場の仲間と親
睦を深めるため
にやりたい

健康づくり

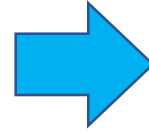
地域の人や
家族と楽し
みたい

体力，技能，性別，障害の有無・・・

様々な違いを超えて運動やスポーツの楽しみ方
を共有するためには？

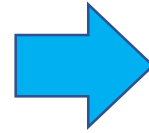
共生の視点を踏まえた指導の充実（男女共習について）

意義の理解



- ・男女共習が求められる理由
- ・科目体育で育成を目指す資質・能力

できることは何か
考える



生徒の実態，種目の特性，活動場面，
健康・安全

男女共習を通して何を学ぶのか，
教師も生徒も考える

段階を踏んで，できることからスモールステップで

人には違いがあることに配慮し，よりよい環境づくりや活動につなげようとすることに自主的に取り組もうとする



生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現

共生の視点を踏まえた指導の充実（障害のある生徒などへの指導）

体力や技能の程度及び性別の違い等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けた重要な学習の機会であることから、原則として男女共習で学習を行うことが求められる。その際、心身ともに発達が著しい時期であることを踏まえ、運動種目によってはペアやグループの編成時に配慮したり、健康・安全に関する指導の充実を図ったりするなど、指導方法の工夫を図ることが大切である。

また、障害の有無等にかかわらず、仲間とともに学ぶ体験は、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現とともに、スポーツを通じた共生社会の実現につながる重要な学習の機会であることから、本解説第3章第1節3に示した障害のある生徒などへの指導の内容等を参考に、指導の充実を図ることが大切である。

共生の視点を踏まえた指導の充実（障害のある生徒などへの指導）

障害のある生徒などについては，学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的，組織的に行うこと。

障害者の権利に関する条約に掲げられた**インクルーシブ教育システムの構築**を目指し，児童生徒の自立と社会参加を一層推進していくためには，通常の学級，通級による指導，小・中学校における特別支援学級，特別支援学校において，児童生徒の十分な学びを確保し，生徒一人一人の児童生徒の障害の状態や発達の段階に応じた指導や支援を一層充実させていく必要がある。

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 保健体育編
第3章 各科目にわたる指導計画の作成と内容の取扱い
第1節 指導計画作成上の配慮事項 P.223

インクルーシブ教育とは，障害の有無に関わらず，全ての人と一緒にいることができることを目指す教育のこと。

共生の視点を踏まえた指導の充実（障害のある生徒などへの指導）

障害のある生徒などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。

通常の学級においても、発達障害を含む障害のある生徒が在籍している可能性があることを前提に、全ての教科等において、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援ができるよう、障害種別の指導の工夫のみならず、各教科等の学びの過程において考えられる困難さに対する指導の工夫の意図、手立てを明確にすることが重要である。

学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫例

◎ 身体の動きに制約があり，活動に制限がある場合

◎ 生徒の実情に応じて仲間と積極的に活動できるよう，用具やルールの変更を行ったり，それらの変更について仲間と話し合う活動を行ったり，必要に応じて補助用具の活用を図ったりするなどの配慮をする。

☆ 試合や記録測定，発表などの状況の変化への対応が求められる学習活動への参加が難しい場合

☆ 生徒の実情に応じて状況の変化に対応できるようにするために，挑戦することを認め合う雰囲気づくりに配慮したり，ルールの弾力化や場面設定の簡略化を図ったりするなどの配慮をする。

共生の視点を踏まえた体育の具体的な実践について

様々な困難さへの合理的配慮を具現化するために必要な概念

「アダプテッド・スポーツ」

ルールや用具を障害の種類や程度に適合（adapt）することによって、障害のある人はもちろんのこと、幼児から高齢者、体力の低い人であっても参加できるスポーツを指す

☆障害のある人がスポーツを楽しむためには、その人自身と、その人を取り巻く人々や環境を課題として取り上げ、両者を統合したシステムづくりこそが大切であるという考え方。

共生の視点を踏まえた体育の具体的な実践について

障害のある子どもと共に学ぶ体育実践とは

アダプテッドの実践的方法の次元

モノ

体育で使う道具を、障害のある子どもにとって使いやすいものやアクセスしやすいものを用意してみる。

ひと

友だちとうまく教え合いや支え合いができるように、友だちの障害についてクラスで学びあったり、支援員や学習ボラ、協力教員を配置し、指導者間の連携がとれたりするようにする。

場所

体育で使う場所を、障害のある子どもにとって使いやすいように、またはアクセスしやすいように変更したりする。

ルール

授業のなかで、達成しなければならない課題や、守らなければならない指示を、子どもの特性に応じて、わかりやすく、必要に応じて課題内容を変更したり、追加で情報を加えたりする。

共生社会の実現に向けて

共生

できない理由をさがすのではなく、「何ができるか」
「どのように工夫したらできるか」という視点で考え、
柔軟に対応していくことが必要である

☆ **全ての人が一緒に活動できることを常に
目指す授業にしていくことが重要**